

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	1070202005		
法人名	社会福祉法人タービュランス福祉会		
事業所名	グループホーム根小屋		
所在地	群馬県高崎市根小屋町1636-7		
自己評価作成日	令和7年2月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和7年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍からみれば活動が徐々に増えてはおりますが、まだ大規模な行事などは再開できていません。そんな中福祉大の学生実習の受け入れなど再開している出来事もあり、一つ一つ可能な日常を戻せればと思います。

職員の定着率が低い状況が未だ続いている点はマイナスポイントと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症の影響をうけて外部との活動がままならないなかではあるが、隣近所との挨拶を交わし関わりを継続し、運営推進会議においても地域の方から地域の情報を得たり誘いを受けるなど、今後に期待できる繋がりをもっている。また、室内で過ごすことが多くなってしまったが、そうしたなかで利用者それぞれの好みや能力にあわせたレクリエーションを行うことや、職員の提案をうけてこれまでも食事づくりに関わってもらってはいたが、台所に入って食材の下処理をしてもらうなど、さらに活動が高められるような環境を設定し残存機能を活かした取り組みを行っている。また、買い物に行くと利用者に声をかけてチラシを見せて何が食べたいか聞いたり、家族から生まれ故郷に連れていきたいと聞いて検討したり、利用者の気持ちを大切に支援につなげる努力をしている。そうした情報共有は、会議開催が中断しているなかで「申し送りノート」を活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やホールなど目につきやすい場所に掲示し全員で共有しあっている。	法人の理念をもとに、管理者は利用者のこれからの大切な1日1日を楽しんでいただけるよう支援したいと考えている。理念について話し合う機会はないが、毎朝理念を唱和し意識付けを図り、日々の支援を検討する際は理念に基づいて行っている。	職員個々に考える理念について意見交換をすることで、理念の再認識につながり、理念の共通認識につなげることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	掃除などの地域の行事に参加したり、施設見学会を開催したこともある。	隣近所には挨拶を交わし、関係を築いている。南八幡地区の新年会には管理者が参加している。回覧板や運営推進会議で地域の清掃や納涼祭などの情報を得たり誘いがあり参加したいと考えているが、職員体制により参加ができない状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の顔合わせ会に必ず出席し地域の方との交流の中に施設の話などを踏まえコミュニケーションを図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昔から地域に住む区長さんらが出席して下さる事から昔から起こっている災害時の情報を聞く事ができる。	年間予定表を作成し集まりやすい土曜を開催日として、区長・民生委員・包括支援センター・家族の参加があるが、市担当者は書面での出席で参加してもらえない状況である。地域の情報を得たり、災害時について質疑や意見交換が行われており、今後は事業所の課題も相談したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に出席下さる市の職員やあんしんセンターの職員に現状報告や他施設などの状況を確認することができる。	市には運営推進会議開催の年間予定表をお渡ししているが出席がなく(書面の出席)、市との意見交換をしたいと考えている。議事録を市にもお渡しすることで、参加につなげたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内委員会による定期的な勉強会を開催している。日中の施錠は基本的には行っていない。夜間の防犯に備え行なっている。	年2回法人で身体拘束廃止にむけた勉強会があり、出席できない職員は資料をもとにレポート提出を行う学習の機会がある。事業所内には身体拘束が必要な利用者はなく、スピーチロックを中心に注意を払っている。職員間での注意は難しいため、管理者が個々の職員の指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する委員会もあり上記同様、定期的な勉強会を法人内にて開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の方の相談に応じた必要があれば積極的に支援したい。成年後見制度については職員の理解が深まるようにパンフレットを渡している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安な事柄があればその都度説明する時間を持つように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いている。	家族には面会や電話で直接、「何かありますか」と声をかけ言える機会を作っている。そうしたなかで、利用者を生まれ育った場所に連れて行きたいという希望に向けて検討が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時に情報の提供、意見発信の機会を設けている。	既存の業務の流れを、職員の意見をもとに改善することがあり、直近では利用者が台所で調理の手伝いをする機会を作るなど、利用者の残存機能を活かす場面づくりにつながっている。「申し送りノート」を活用し、職員の気づきや連絡事項の共有を図ることで、現在は職員会議の代わりとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人でキャリアパスの策定を行なっている。職員間の個々の状況にあった勤務を考え、た良い雰囲気サービスが提供できる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実務者研修を対象とした資格取得支援金制度を作り資格取得を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の顔合わせ会に必ず出席し交流を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を伺いながら時間を掛けて対応している。また詳しく生活歴や本人を取り巻く人間関係を知ることによって安心して生活になれるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望に耳を傾けるのはもちろんの事接する時の態度や言葉遣いなどにも注意しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様の話を伺い職員会議やその日の出勤者等で話し合いながら共通した支援が行われる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事できない事を見極めできる事をお願いしたりできない事は一緒に行いながら信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり誕生日にはご家族を招待しグループホームで作った食事を召し上がっていただく。コロナ禍の影響は残り現状実施できず。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにより人との接触が制限されてきたが緩和を機に一部入居者様より帰郷の相談が持ち上がっている。	家族から生まれ故郷に連れていきたいという要望を受けて実現したいと考えていた矢先に、種々の影響をうけて中断しているが、支援をして実現したいと考えている。馴染みの人は家族と捉え、利用者の写真を個別に郵送したい考えもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中でそれぞれの関わりを注意深く観察し孤立にならない様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談等問い合わせがあれば対応を行なう。他界された際は葬儀に参列したいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で声掛けをし言葉や表情、行動などから意向をくみ取り活かすように努めている。	入浴など2人になる場面は、深く話せる機会と捉えて、そうした機会に利用者の不安な気持ちを聞き、安心できるように説明を行うなど個別に対応を図っている。理念にある「その人の立場」になって、その人はどうしてほしいのか考えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活履歴等把握するよう努め入居後でも毎日の会話の中でも把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のさまざまな記録等で本人の状況を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員会議、生活記録、実施モニタリング表を活用し介護計画を作成している。	ケアマネジャーは職員の気づきが大切と考え、職員との関係を作っている。職員の意見をうけて、現状にあわせてサービス内容を変更している。職員は毎日サービス内容のモニタリングを行うことで、サービス内容を意識できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や気付いた事などを生活記録として記入し会議などで職員全体で共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じ可能な限り本人家族の意向に沿うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々、家族、かかりつけ医など様々な方の協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となるよう意向を確認している協力医の月2回の往診がある。	事業所の協力医による2週間に1回の訪問診療と、薬剤師の訪問がある。希望する場合は、これまでのかかりつけ医に定期通院している。受診する際は、日頃の様子や変化を伝えるため管理者が対応することが多いが、状況より家族の付き添いの場合は、口頭で家族に状況と医師への質問を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置されていない為、法人内や協力医に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞い時に看護師に状況の確認をやり取りする。また洗濯物などの交換も家族と協力して行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内の特養を中心にサービスの移行ができる様に体制を整えている。	自立で食べられない・浴槽をまたげないなど事業所での生活が困難になった場合には、設備や医療支援が受けられる環境の法人の他施設を視野に入れて転居することを説明している。入居時に、家族に説明が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に備えた連絡体制をしいている。また職員には普通救命の講習を受講してもらっているが全員はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施、近年は台風に備え母体のホビ園に避難するなど状況により判断している。	年2回、火災想定避難訓練を行っている。消防署への依頼はしておらず、設備業者により水消火器を使った訓練が行われている。入職した職員が訓練に関われるよう現在は昼間想定であるが、今後は夜間想定でも行う予定である。備蓄は法人と事業所でも保管している。	近隣との関わりがあり、運営推進会議でも地域とのつながりがあるので、災害時についての協力依頼や確認をすることで、避難できることにつながることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族等の情報でその方にふさわしい呼び名でよんでいる。その方の生き方や社会性によって個々に違うと思うので一人ひとりに合わせる工夫をしている。	基本的に失礼のない声かけをするようにしている。排泄の確認などは、特に注意している。職員間で伝達する際には、居室の番号でするなど、プライバシーを損ねないようにしている。ゲームもその人にあったものをすすめるなど、自尊心を損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも言える雰囲気作りに努めなじみの関係作りを実施している。おやつのお菓子などで色々な種類の中から選んでいただいたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらから一方的に支援することなく個々の希望に添える様に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本着たい服を自由に選んで頂いている。季節と合っていない服装に関しては本人と話し変更したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人栄養士の献立にそって食事提供している。野菜の皮むきなど、できる利用者手伝っていただいたりしている。コロナも落ち着き、台所に入ってもらって職員と調理を一緒に実施している。	献立は法人の栄養士が作成し、材料は配達とスーパーで手配して、手作りで提供している。誕生日には食べたいものを聞いたり、難しい場合には選択肢を出して聞いたりして提供している。また、職員が買い物に行くと伝えてチラシをみせて欲しいものを聞くなど、食への意欲が高めるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体格や体調具合によって提供している。野菜をなるべく多くし便通にも配慮している。胃を全摘された人がおり一回の食事量に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。基本自身で洗浄していただくが具合により介助を行なう。夜間は洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し毎日の傾向をチェックしトイレのタイミング、下剤の使用を確認している。	自分でトイレで排泄できる方もおり、見守りをして排泄の有無についてはさりげなく聞くようにし、排泄チェック表に記録している。1日2回体操を行い、押し車で歩ける方にはせかさずに、自分でできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回は食事にヨーグルトを取り入れている。野菜を多く使ったメニューを意識し調理にあたっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週最低2回実施している。希望されない時は無理強いには行っていない。時間にとらわれず午前午後どちらにも入れる環境なのでその時の利用者の気分に沿って実施している。	週2回入浴を行っている。脱衣から入浴まで職員体制によることもあり職員一人で行うため、利用者と1対1の支援となり、昔話や気持ちが聞ける機会となっている。利用者の気分で入浴がすすまない人は入浴日を変更して、タイミングをみて入浴をすすめている。冬至にはゆず湯を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて基本いつでも休んでいただける。その他別ホールやソファ、畳など好きな場所で過ごさせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の補充時は申し送りノートに変更追加等特記している。投薬時は職員2名によるダブルチェックを行ない誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたむ、縫い物、畑仕事、台所、野菜の皮むき、体操の声掛け等それぞれの得意分野で手を借りている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況の許す限り散歩やドライブを実施している。外食や花見などの外出レクも実施している。	散歩に出掛けることもあるが、現在は気候と職員体制により室内でのレクリエーションが多くなっている。気候がよくなり感染症の心配がなくなれば、ドライブで花見に出掛けたいと考えている。	わずかな時間でも玄関先に出る・外の空気を感ずるそのような日常的な機会をつくれることに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近年徐々にお金の管理はできなくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたければ掛けたりかかってくれば繋いだりしている。季節の挨拶状が届けば返事を書いてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下壁に行事の写真を貼り思い出せる様にしている。また来館した家族への、活動の報告も兼ねられ好評でもある。	ホールにはその月の節分やバレンタインなどのイベントにあわせて作った折り紙などが、掲示されている。大きな日めくりカレンダーや食事の挨拶の当番の利用者の名前があり、生活感が感じられる。ホールとは別にソファが設置された空間があり、活用を検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内にソファや別ホールがあり居心地の良い場所ですごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の家具、写真、植物等、持ち込みは自由にされている。誕生日プレゼント等の花なども飾っている。	居室には、机を置き好きなことを書いていたり、仏壇や椅子など本人や家族が本人にあったものを持ち込んでいる。配置は、利用者の動線により変更するなど、安全に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすいように余分なものは置かない、身体状況により車イス押し車に対応し転倒予防に努めている。		